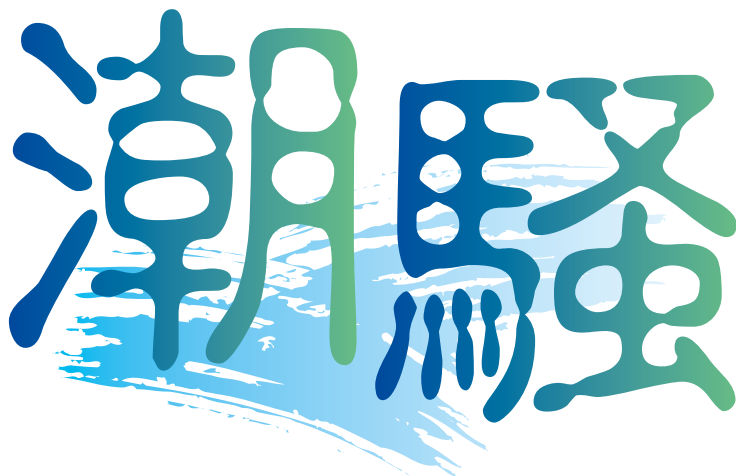


2020年は新型コロナウイルスが猛威を振るい、感染拡大防止のため、今まで当たり前に行っていたことが制限されて、三密を避ける行動が推進されるなど、変化に対応せざるをえない一年となりました。めまぐるしく変わる状況の中、疲れを感じることもあるかもしれませんが。そんな時は海岸に赴き波の音を聴いて、日常を忘れてみませんか。



CONTENTS

- ◆特集1「表浜のいま」 P1～2
- ◆特集2「校区紹介」 P3～4
- ◆連載「表浜の地形とくらし」 第3回～表浜のタタキや井戸の分布と地層との関連について～ P5
- ◆田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会の概要 P6
- ◆表浜風土記「山田もと生誕100年を記念して」 P7
- ◆令和2年度事業計画 P7



表浜のいま

現在放送しているNHK連続テレビ小説「エール」のオープニングの中でも登場する表浜海岸。風光明媚な景色が広がっている一方で、少しずつ姿を変えています。今回は表浜海岸の現状について特集しました。

表浜海岸は、サーフィンや釣りなどのレクリエーションの場として、また、自然災害からわたしたちを守る防災機能として、生活の中で様々な役割を果たしています。しかし、近年、台風や豪雨、風化が原因で土砂の流出や崖の崩落などの被害を受けています。ほかにも海岸浸食が進行しており、一部の海岸では砂浜が減少しています。当地域においても南海トラフ地震の発生が予測されており、以前にも増して保全事業の推進が重要になっています。



土砂が流出している六連町道盤



砂浜の減少が著しい浜田海岸

田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会では、こうした課題に対応するために、海岸及び防風林・保安林などの管理者である愛知県に整備推進の要望活動を行っています。今年度の要望箇所は治山※・海岸保全あわせて10か所です。協議会からの要望に対して、愛知県によって着実に整備が進められており、今年度は、東神戸町の井戸島と南神戸町の東浜辺の2か所の治山工事を実施しているところです。

※治山…台風や地震などによって崩壊した斜面を元の森や傾斜地に戻すこと。

東神戸町
井戸島

工事前



工事中



南神戸町
東浜辺

工事前



工事中



表浜海岸の**自然環境を次世代につなぐ**こと、これが今を生きるわたしたちに与えられた大切な役目です。当地域の現状や魅力をより多くの方に知っていただき、ともにこの雄大な表浜海岸を守りつないでいきましょう!

地元サーファーにインタビュー

大草町出身で約10年前にサーフィンを始めた田中宏樹さん(大草町在住)。

表浜の魅力を知る一人として、大草海岸の現状などを中心にお話を伺いました。



田中 宏樹さん
(大草町在住)



大草海岸(令和2年9月撮影)

大草海岸の現状はどうか？

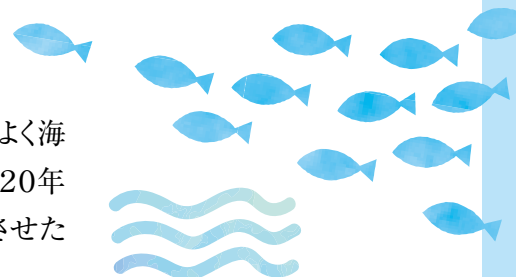
サーフィンや釣りのシーズンになると海岸は多くの人で混雑します。海岸でも赤羽根にある太平洋ロングビーチは駐車区画が決めている一方で、大草海岸を始め、田原市の表浜地域の海岸には区画がありません。そのため、車が多くなると無理な駐車が見られます。ほかにも、ゴミの増加や公共トイレの使い方など、快適に海岸を利用する上で問題が起きてしまっているのが現状です。

今後の取り組みは？

こうした問題をどうにか改善したいと思い、大草が好きな仲間とマナーを守ってもらうための啓発看板を考案し、地元と協議して設置を行いました。また、毎月第1日曜日にはサーフィン協会と一緒にゴミ拾いを行っています。しかし、看板の設置やゴミ拾いで効果があったかというとなかなか難しく、改善するための何か良い方法はないかなと模索しています。

海岸への思いを聞かせてください。

今後も市内の人・市外から来た人関係なく、みんながマナーを守って気持ちよく海岸を利用できたらと思います。この先も豊かな海でサーフィンを楽しみ、10年・20年後、地元の大草海岸で自分の子どもと一緒にサーフィンをするという夢を実現させたいです！



大草海岸に設置した看板



大草海岸と田中さん

校区紹介品 大草小学校

昨年、本誌の「表浜風土記」で登場した、甚句や相撲体操を取り入れている大草小学校。今回は、大草小学校の特色ある活動について伊藤由美子先生にお話を伺いました。

質問1 どのような小学校ですか？

大草小学校は、全校児童数が83人と小規模な学校です。第2の学級として縦割り班を設け、様々な活動を行っています。その活動の一つとして、6月には遠足で大草校区を巡りました。本郷神社や大泉寺の見学、大草海岸での砂の造形など、楽しみながら地域の文化財や自然とふれ合うことができました。縦割り班活動によって、上級生の責任感や縦のつながりが強くなり、学年関係なく交流しやすい雰囲気の中、楽しく過ごしています。



遠足での砂の造形

質問2 特徴的な活動があるようですが。

毎年、春場所は運動会の種目、夏場所は「大草ふれあい相撲」、秋場所は縦割り班対抗と年に3回、小学校にある土俵で相撲大会を開催しています。今年度は中止になってしまいましたが、昨年度の夏場所には、豊橋出身の力士藤大成さんをお迎えし、迫力のある四股やすり足を見せてもらったり、一緒に相撲をとらせてもらったりと貴重な体験ができました。また、平成30年から運動会で相撲体操を披露するなど、相撲に関連した活動に力を入れています。

質問3 相撲を通じて学んでほしいことは？

諦めない気持ちをもって挑戦する子になってほしいです。秋場所では、6年生が最後の土俵で、相撲の思い出についてスピーチします。「土俵ぎわでせりあい最後まであきらめずに戦った。」「大草小でしか味わえない貴重な体験ができた。」「これからも引き継いでいってほしい。」など、相撲を通して感じたことを話してくれました。



藤大成さんとの相撲の様子（令和元年度の夏場所）



土俵ぎわのせめぎあい（令和元年度の運動会）

今年は新型コロナウイルスの影響で制約もありますが、子どもたちの心に残る活動を工夫しながら実施しています。



校区紹介

表浜ほうべの森 (田原市谷ノ口公園)

平成29年にオープンした表浜ほうべの森。豊かな自然の中でキャンプやバーベキューなどを楽しめることから、連日多くの方で賑わっています。表浜ほうべの森について、谷ノ口公園管理委員会会長の福井公雄さんにお話を伺いました。



福井公雄さん

質問1 利用状況を教えてください。

キャンプに関しては、昨年度と比べると、利用人数は少なくなった一方で、お客さんが借りてくださるスペースは増加しました。というのも少人数でキャンプをする場合、従来1サイト(4m×4m)借りてもらっていたところを、密を避けるため、2サイト(4m×8m)分借りていただけるようになったのです。

また、遠くに出かけることにリスクがある状況の中で、豊橋市や豊川市など近隣の市町村から来てくださる方が増加しました。今では利用者の三分の一を占めるほどです。

もちろん、新型コロナウイルス対策として、検温を始め、マスクの着用や消毒液の設置、よく手に触れるもののこまめな消毒などを行っています。ほうべの森としては、キャンプ場の新たな利用方法を考えたり、新規のお客さんに来ていただけたりと、新しい生活様式に対応する良いきっかけをつくることができました。

質問2 今後の展望は？

基本的にキャンプ利用の予約は電話で受け付けており、その際に注意事項を理解してもらった上で利用していただくようにしています。そのおかげで、ゴミの持ち帰りや駐車場の使用などで問題が起こることはめったにありません。つまり、利用者の方のご理解とご協力があって、今のほうべの森の形態が維持できています。今後もお客さんと一緒に自然と共生するほうべの森をつくっていけたらと思っています。

また、地域にもっと貢献をしていきたいです。キャンプ場を利用してくれたお客さん百数十名が日曜日の11時にチェックアウトされるので、市内の飲食店や田原市の観光体験博覧会「たはら巡り〜な」も同時に利用していただけるような取り組みもできたらと考えています。心癒やされる自然豊かな当地にぜひお越しください。



キャンプ場



多目的ホール

各種イベントやワークショップなどで使用できる多目的ホールですが、壁面に写真や絵画等の展示ができるようになりました。お試し期間として、今年度中は無料で展示ができますので、お気軽にご相談ください。

表浜ほうべの森 TEL●0531-24-8901

表浜の地形とくらし

第3回 ～表浜のタタキや井戸の分布と地層との関連について～／藤城信幸(田原・赤羽根史現代編編集委員)

右の写真は、40年程前に谷ノ口の農家で撮影したタタキ(貯水タンク)です。瓦屋根に降った雨水を樋で受け、軒下に掘ったタタキに集めて洗濯水や風呂水に使っていたのです。容積は5m³程。今の4人家族の水道使用量に換算すれば5日分程度。この農家の飲料水は、120m離れた共同井戸から1日1回40L程の水を朝食前に汲んで使っていました。しかし、タタキの水を飲む農家も多く、ボウフラが湧かないように金魚やフナが入れてありました。簡易水道が普及する昭和30年以前には、タタキは、赤羽根町～田原町の表浜農家の軒下にごく普通に見られました。



写真1 谷ノ口で見つけたタタキ

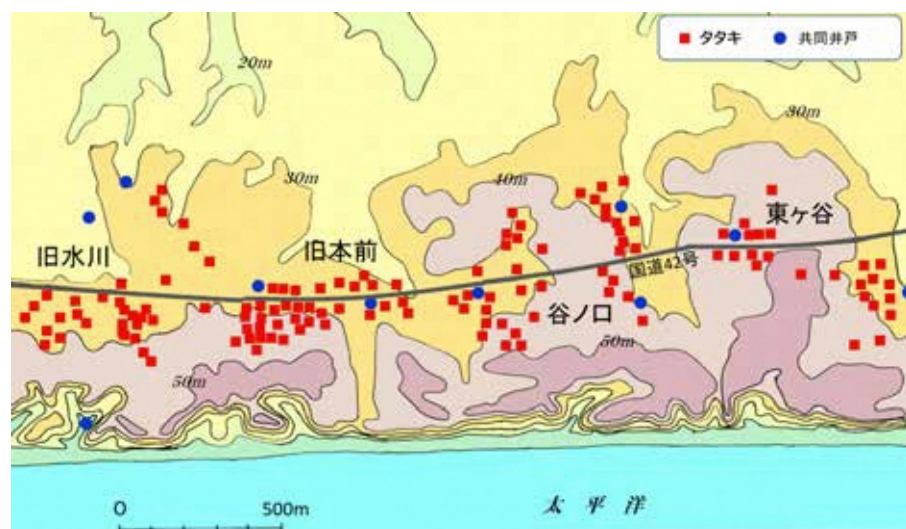


図1 南神戸～東神戸のタタキと共同井戸の分布図(等高線は10m間隔)

昭和55年に、越戸～六連の集落を回り、井戸とタタキの聞き取り調査をしました。左の地図はその一部です。南神戸と東神戸では、個人で井戸を持つ農家はなく、水道ができる前は全ての農家がタタキに依存していました。

下の表は、1955年に故鈴木啓之先生が表浜集落の井戸とタタキの実測調査をまとめられた資料の一部です。

集落名	戸数	共同井戸:本	井戸の海拔:m	井戸の深度:m	簡易水道設立:年
水川	31	1→0	海崖下	?	昭和26
本前	34	2→1	33.5	28.7	30
谷ノ口	41	3	37.5	26.5	31
東ヶ谷	67	4	41.6	32.5	28

鈴木啓之(1955)観測資料より

各集落には1～4本の手掘りの共同井戸があり、日照りでタタキの水がなくなるとこの井戸に出かけました。共同井戸は30mもの深さがあり、10階建てのビルの屋上からバケツを下ろして井戸底の水を汲み上げるような重労働を強いられることになります。水川や大草半身の共同井戸は海食崖の下にあり、高さ40mもの崖の坂道を天秤棒で担って何度も往復しなければなりません。水川の古老から昔は「水川、水なし田なし畑なし、好いていく娘の気が知れぬ」といわれたほど、水に恵まれない村だったという話も伺いました。水川は昭和26年に県の補助金で簡易水道を完成させました。海岸の谷底にあった明治時代の古井戸をさらに掘っていくと待望の水が湧き出し、ポンプで崖の上まで汲み上げて鉄管で各戸へ送りました。完成時には県知事も訪れ、ニュース映画にもなったそうです。

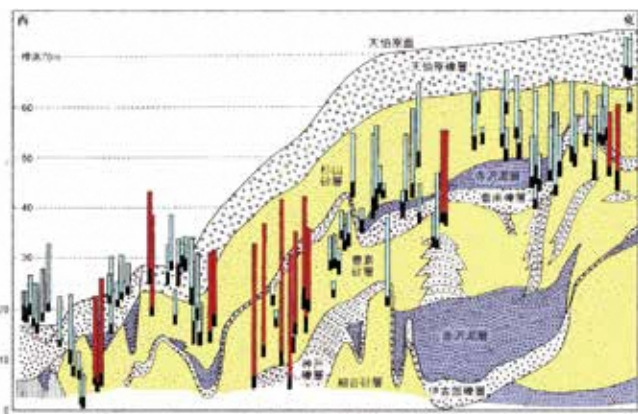


図2 渥美半島東部地域における地質断面図と井戸の深度の関係(杉山雄一1991と鈴木啓之1956をもとに作成)

左の断面図は、鈴木啓之先生の井戸の実測結果と杉山雄一氏(1991)の地質断面図と重ね合わせたものです。

各集落の井戸の深さは、海食崖中の泥層の有無との関連性が強く、豊橋市の表浜集落は標高が高くても、寺沢泥層の上の宙水(地下水)を汲み上げることができました。

当時は、個人の力で井戸を掘れる深さはせいぜい10m。それよりも地下水が深いと共同で深井戸を掘ることになります。赤羽根中村と高松では集落の下に泥層があったため、個人井戸が多く見られました。

地下に泥層がない半身～東ヶ谷では、30mもの深井戸が必要になり、農家は雨水に頼るしかなかったのです。

「みんなで考え・行動する地域づくり」

田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会の概要

■会長あいさつ

田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会 会長 安田 一正

本協議会は平成8年の発足以来24年目になります。六連・神戸・大草そして田原東部の4校区が主体となり、田原市の協力をいただきながら、自立した地域活動を歩み進めて参りました。

協議会の活動の一つに「表浜自然ふれあいフェスティバル」があります。この行事は、表浜海岸などの大自然の魅力を感じつつ清掃活動を行い、崖森の崩落や海岸侵食の現状を広く知ってもらうことを目的とし毎年開催しているものです。今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、海岸清掃のみを実施することとなりましたが、地域の方やボランティア、サーフィン協会、田原市立東部中学校など、多くの方々に携わっていただいています。

このようなイベント等を通して、同じ海岸環境を持つ地域との連携をとりながら、行政と一体となって海岸侵食対策、地震対策等に取り組むとともに、太平洋岸地域の快適で住みよい環境整備が実現できるよう活動していきたいと考えております。



今後の協議会の取り組み

- ・太平洋岸の魅力を発信するイベントの開催
- ・海浜・崖森・農地エリアのエリア別の整備促進
- ・渥美半島全体の連絡調整
- ・関係機関への要望活動等の展開

■協議会組織（令和2年11月現在・順不同）

役員	会長	安田一正（六連コミュニティ協議会長）
	副会長	浅野正三（神戸コミュニティ協議会長）、藤原喜郎（大草コミュニティ協議会長）、岡田惣二（田原東部コミュニティ協議会長）
委員	市議会議員	大竹正章、仲谷政弘、赤尾昌昭、村上誠
	漁業関係者	河合浩一（愛知外海漁業協同組合幹事）、太田行彦（愛知外海漁業協同組合網元代表）
	市農業委員	井坂育男、河合信好、藤城忠義、河邊高章
	市役所	鈴木正直（副市長）、鈴木隆広（産業振興部長）、稲垣守泰（都市建設部長）、増山禎之（教育部長）
顧問		山下政良（田原市長）、山本浩史（愛知県議会議員）、鈴木照彦（愛知みなみ農業協同組合代表理事組合長）
事務局		市役所企画部企画課

●表浜自然ふれあいガーデン 実現に向けてのこれまでの動き

海と森と農村における「自然と人」「人と人」のふれあいの庭（ガーデン）をイメージし、その実現のために、海・砂浜・崖・森・農地の保全と利用を図ると同時に、新たにレクリエーション・保養・学習などふれあい機能の導入を図るものです。

ハード事業

◆海岸整備（県事業）

- ◇海岸保全事業（傾斜護岸）：百々海岸（H19）、離岸堤調査・工事（豊橋田原海岸）
- ◇海岸治山事業：10箇所要望中・随時実施予定（R2実施中：東神戸町井戸島、東神戸町東浜辺）

◆拠点地区の整備促進（市事業）

- ◇公衆便所整備事業：谷ノ口海岸（H9）・大草海岸（H10）・百々海岸（H11）・東ヶ谷海岸（H13）
- ◇海岸駐車場事業：大草海岸（H11）・百々海岸（H12）
- ◇公園整備事業：表浜ほうべの森整備（H18～）
- ◇観光地維持管理事業：浜田海岸レンタルトイレ1基設置（R2.6月～11月）

ソフト事業

◆表浜自然ふれあいフェスティバル（協議会事業）

- ◇メイン海岸：谷ノ口（H10,25,26,28～R1）、東ヶ谷（H13,19,22）、百々（H12,15,18,21,24）、大草（H11,14,17,20,23,27）※H16は分散開催

●農地エリアの整備 実現に向けてのこれまでの動き

ハード事業

◆農村・農地の整備（市事業）

- ◇農村振興総合整備事業：大草・高松地区（H18～）／田原東部地区（H19～）
- ◇農用地基盤整備事業：谷熊新田排水対策（H20～H26）
- ◇農地・水・環境保全向上対策（H19～H25）
- ◇多面的機能支払事業（H26～）

表浜国土記

「山田もと生誕100年を記念して ～記念冊子や記念行事の紹介～」

昨年、本誌面で「生誕100年前に 表浜地域の暮らしを表した山田もとさん」を紹介しました。創刊号から18号まで毎号「表浜むかし話」のコーナーで表浜地域の暮らしや文化を昔話の形で伝えた方です。

その山田(旧姓:松本)もとさんは、1920年に現在の大草町志田で生まれました。生誕100年となる今年、田原市図書館・田原市博物館・大草校区が連携して、その生涯や作品を紹介する事業を行います。記念の年に改めて地元の作家山田もとの業績を振り返り、昔話を読んでみてはいかがでしょうか。



表浜むかし話 表紙

主な記念事業

1. 記念行事

日時 ● 12月20日(日) 午後1時30分～3時40分
場所 ● 田原文化会館 多目的ホール
定員 ● 80名
内容 ● ①成章高校演劇部による作品の朗読
②講演「地域のおはなしを語り継ぐ魅力」
講師:内浦有美氏(ばったり堂)
③大草小学校4年生による演劇『水の歌』
④座談会
申込 ● 11月14日(土)から、田原市図書館、博物館、大草市民館で直接、電話、FAXで受付。

2. 図書館・大草市民館展示

企画展「生誕100年 もとばあちゃんが残した たはらの民話」
期間 ● 12月12日(土)～2月11日(木・祝日)※渥美・赤羽根は1月9日(土)～
場所 ● 田原市中央図書館、渥美図書館、赤羽根図書館、大草市民館
内容 ● 年譜、展示パネル、関連資料ほか

3. 博物館展示

平常展「～渥美半島と文学～児童文学作家 山田もと」
期間 ● 12月5日(土)～2月7日(日)
場所 ● 田原市博物館
内容 ● 『水の歌』などの原稿、書簡ほか
観覧料 ● 310円(ほの国こどもパスポート提示で小中学生は無料)

4. 記念冊子『表浜むかし話』

内容 ● 『潮騒』の連載記事「表浜むかし話」
全18話をまとめた記念冊子を作成。
冊数 ● 400部
配付先 ● 市内市民館、小中学校ほか

令和2年度事業計画

主要事業

第23回表浜自然ふれあいフェスティバル

日時 ● 令和2年11月28日(土) 午前9時～9時50分
※悪天候の場合は、11月29日(日)に延期
場所 ● 久美原海岸、百々海岸、浜田海岸、東ヶ谷海岸、谷ノ口海岸、南町海岸、大草海岸
内容 ● 海岸清掃
目的 ● 表浜海岸の魅力、海岸侵食などの現状を広くPRすることで海岸整備の促進を図る



第22回表浜自然ふれあいフェスティバル
海岸清掃の様子(令和元年12月7日開催)

※今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、親睦会は行いません。楽しみにされていた皆さまには、ご迷惑をお掛けすることをお詫び申し上げます。

主な推進事業

農村総合整備事業: 田原市産業振興部農政課
[大草・高松地区、田原東部地区]
多面的機能支払事業: 田原市産業振興部農政課
[六連・神戸・大草・田原東部各校区]
海岸治山事業: 愛知県東三河農林水産事務所
海岸保全対策: 愛知県東三河建設事務所
谷ノ口公園管理事業: 田原市都市建設部街づくり推進課

★表浜地域づくり情報誌「潮騒」や「協議会活動」に対するご意見・ご要望・ご感想をお寄せください。

【発行】田原市東部太平洋岸総合整備促進協議会(事務局:田原市役所企画部企画課) 〒441-3492 愛知県田原市田原町南番場30-1 TEL0531-23-3507